

刊夕日五

邱(聖壽院長)四日午後移聖廟古跡東

的のものとなり
 の調理法の如きも
 各國に千種萬容
 た(自耳義師が館師に
 プリがマシ氏に)
 を食べつゝお酒

世界的のものとなり
其の調理法の如きも
世界各國に千種萬容
を食べつゝお酒を飲みまし
たものと面白いと思ひまし
た(白根義典氏前所引)
であると思ひます
(英國船舶卿バトラー氏談)



を飲みまし
と思ひまし
であると思ひます
(英國副帥バトラウ氏談)

の五ヶ高坂を御用として
も之と隣接賣地を引替めて
最近の大坂精米によりげ
洲二十餘に引上げ居れり
以來製粉市況は新小麥の

各社何
 大豆腐
 賣り少
 なく思
 へど取
 りあり
 中條
 三十三
 箇
 内
 三十三
 箇
 内
 三十三
 箇

店へ約千呎の洋
子な第一等とし向は斯

小賣白米
現金賣
一等白米 十四錢五厘
次白 十四錢

藥田

奇水

れば、秋の相場をして一落
銀行に預金した以上の

へ「規則書送れ」と申込まれるべし

京城日報

に出て、舊下部監のあつた高地の西北、北側を過つて、城壁外（早島）行旅製作所前）に出る川であつて、此の邊も一帯城壁は破壊されてあるが、舊に新開ニアナ形の水石造水口がある。三門は僅かに殘存して居る。但し此の内一門は川の水量の減じた爲め、全（埋まつてしまつた。第三は東大門の處が完全に發つて居る。要するに東大門より下部監址に至る間の手前、下の箇所は城壁遺水の集る開であつて、此の方面の城壁は排水口を設け、其の水口は石を以て築（河中に石柱を立て上に石を渡して城壁の下を通したるもの）を設け、又其の隙隙を特に石築としたのである。此の水口兩側の石城が一千五十尺であるから、之を前に疊りた城壁の石城一萬九千二百尺に合算すれば二萬二千五百五十尺である。由て是が太祖期石造の全長であると思へる。然して一層斷つて置くべき事がある。其は當時東大門附近は一帯卑湿であつたので、東大門を築くにも非常に骨が折れた。實錄に「東大門は其地低下なるを以て杭を排へ石を疊みて而して後之を城く故に其功地に倍す」とあるのである。されば此の邊は彼の高峻の處及び平山といふには當つて居らぬ。隨つて、高峻の處及び平山に築いた城壁合して五萬九千五百尺は、此の東大門附近水口の石城一千五十尺を含まねものとするのである。

第二回 秋役、工事成績
 太祖の五年二月、一先づ城壁が出来上つたが、まだ諸門が成就せぬ。又不承にして此の歳の雨期には大が出水した爲め、前役經途の築いた城壁の中毀壞した部分も少からず、又水口、石壁の雨水の衝く所となつて破れ崩れたものさへあつた。それで九月の秋役に、は此等の毀損を修理し、更に一箇所の雲梯を設けた上、諸門の工事を急いだ。其の記事に

に出て、舊下部監のあつた高地の西北、北側を過つて、城壁外（早島）行旅製作所前）に出る川であつて、此の邊も一帯城壁は破壊されてあるが、舊に新開ニアナ形の水石造水口がある。三門は僅かに殘存して居る。但し此の内一門は川の水量の減じた爲め、全（埋まつてしまつた。第三は東大門の處が完全に發つて居る。要するに東大門より下部監址に至る間の手前、下の箇所は城壁遺水の集る開であつて、此の方面の城壁は排水口を設け、其の水口は石を以て築（河中に石柱を立て上に石を渡して城壁の下を通したるもの）を設け、又其の隙隙を特に石築としたのである。此の水口兩側の石城が一千五十尺であるから、之を前に疊りた城壁の石城一萬九千二百尺に合算すれば二萬二千五百五十尺である。由て是が太祖期石造の全長であると思へる。然して一層斷つて置くべき事がある。其は當時東大門附近は一帯卑湿であつたので、東大門を築くにも非常に骨が折れた。實錄に「東大門は其地低下なるを以て杭を排へ石を疊みて而して後之を城く故に其功地に倍す」とあるのである。されば此の邊は彼の高峻の處及び平山といふには當つて居らぬ。隨つて、高峻の處及び平山に築いた城壁合して五萬九千五百尺は、此の東大門附近水口の石城一千五十尺を含まねものとするのである。

南支那の經濟觀
 上海金融機
 上海の租界
 上海の租界は天津の租界に比して、英國の租界に比して、最も宜い。上海の租界は、英國の租界に比して、最も宜い。上海の租界は、英國の租界に比して、最も宜い。

鮮銀理事視察談(9)
り見たる上海(三)

關△上海に於ける正金銀行な
り、種々變質部門といふ位で、
金融機關なきや或種の銀行を
代表する人を使ひ輸出貿易の衝に
てゐる。彼の上海結核の如きも
正金は三井の經營に歸するの同様
である。三麥も近頃はかなり活動
的である。最近には上海に於ける
利を買取して盛んに製紙事業を經
営してゐる。三麥は目下調査時代
であるが、各方面に技師を派遣して
先づ各種事業の調査を進めて居る
が、此他必ず有望なる利權を發見す
る事は厭て困難でなく、三麥など
が資本を挾して、舊の衝に當る事
をすれば、三井と相並んで日支經濟
の發達に貢獻し得るであらう。

利權と調査△一日に支那
の利權は無數であるとは云ふが、然
るも之れは未知數である。未知數で
あるが恐らく多數と云つて支那の
例へば獨逸が山東鐵道を經
して大調査にしては居なかつた。然る
に獨逸より程遠からざる所に濠洲の
利が偶然發見せられた。さういふ
調査すれば支那の富源は何は不
見する事が出来やうと思はれる
上海では中央の命令を奉せず父
母の事には應じなかつたといふ
體支那は行政機關でも
中央の地方とは關係が
断れてゐる。地方は死
亡の如く動いて居る。いふ有様だ

京目詩壇

○江亭諸別 高田 小芥
昨夜夢中回。他日願今別。今別。萬
流。君。清。健。使。人。歸。來。不。
○漁村春夕 木田 芳洲
微茫月一痕。笛聲夕能聞。無語。鰯
群。花。散。魚。氣。吹。香。浦。村。
○日暮中過品 澤中神品

六朝日刊

(タ刊合とせ八頁)

<p>定額 一月三圓 三月九圓 半年一五圓 全年二八圓 外埠加郵費 廣告費另議</p>	<p>廣告 第一版 第二版 第三版 第四版 第五版 第六版 第七版 第八版 第九版 第十版</p>	<p>發行所 東京 大阪 神戶 横濱 名古屋 京都 福岡 仙台 青森 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 鳥取 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口</p>	<p>發行所 東京 大阪 神戶 横濱 名古屋 京都 福岡 仙台 青森 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 鳥取 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口</p>
---	---	---	---

此水口門と稱す。正南を農藝門といひ、俗に南大門と稱す。西南を暗廳門と云ふ、俗に西小門と稱す。此面を教養門といひ、西北を彰義門といふ。

由つて此の時に諸門落成したものと見ねる。但し東大總經城は平々、南大門は七年に出来上つたことは前に記した通りである。是れは巨に宏大壯麗なるものであるから多量數を要したのであらう。

諸門の位置名稱等につきては少し

東 京 都 京 橋 町 馬 場 町 二 丁 目 二 番 二 号
東 京 都 京 橋 町 馬 場 町 二 丁 目 二 番 二 号
東 京 都 京 橋 町 馬 場 町 二 丁 目 二 番 二 号

全譯
醉人の事

[illegible]

何人でも一度御試飲あれば
必す……一生涯御常用になるは
美味 滋養 蜂印香竄葡萄酒
凡そ
常用者の忘るべからざる欣快は
毎朝の一杯は……精神を爽にし元氣を増す
「の生命と眞價なり」――
東京日本橋本町
五番町 兵衛

京城市場
 若宮染工場
 京都府
 御用酒造元
 攝津新庄家
 若林合名會社
 絕對の信用を博し
 酒 醋
 最後勝利を獲得す
 京城市場三丁目
 特約店 山本富之助商店
 品質優秀

門專電話開通二八五七

洋服丸染

印入袷天

藥用化學

染色化學

染實

段廣告候也

大正五年七月

竹添町(高田警察署前)

京城電氣株式會社

西大町派出所

電話二九四番

●此町會社通
東京本町 合資 區域商會

物口附購買公告

馬車々輛 大 小 二拾本
同車々輛 大 小 二十本
荷車々輛 大 小 三十本
此入札保證金各五十元入札金萬ノ百分
一五以上ノ者ハ上ノ
入札ノ費ハ府廳ニ於テ國稅、地
方税、學校組合費、一年額以
圓以上正五圓ニ從事ル者保
右上新五年ニ從事ル者保
希望ノ者ハ本年六月一日京
計係ノ上ノ者ハ本年六月一
此契約ハ朝鮮總督府尹金谷
スレバハ朝鮮總督府尹金谷
七月五日 京城府

今般當派出所開設西大
門外蓬萊町以北及麻浦
方面ニ於ケル電氣瓦斯

廣 告

[illegible]

<p>凡粧箱 切手 調進仕候</p>  <p>呈進枚一券品景に每打一</p>	<p>サツポロビール アサヒビール</p> <p>清凉飲料 シトロン</p>	 <p>中元 御進物用 暑中</p>	<p>明治公債株式會社朝鮮支店</p> <p>▲外務社員募集 ▲京城府東拓會社幹事 電話二九〇八番(振替京城三五五〇番)</p>	<p>日韓書房編輯部編</p> <p>朝鮮總督府普通試驗問題解答</p> <p>四六版三百餘頁 正價六十錢 送料八錢</p> <p>朝鮮總督府に於ける普通文官初任見習及雇員の受驗者年々増加するに伴ひ、此の出版は極めて必要に達した。出板されざるを深く遺憾とし、編輯苦心の結果、この要なる圖書を作成せり。本館は總督府設置以來、城上し編輯同志苦心の結果、この要なる圖書を作成せり。本館は總督府設置以來、城上し編輯同志苦心の結果、この要なる圖書を作成せり。本館は總督府設置以來、城上し編輯同志苦心の結果、この要なる圖書を作成せり。</p> <p>發兌元 振替京城百十五番</p> <p>日韓書房</p>
---	---	---	---	---

渡邊默禪

に出居つたといふのが。」
「はい、ほうでござりやんす。山形
の宮さまの所へ五六年もへず、
僅見得にやつて置きやんしたけんご
さつぱり分んねいなす。根がホレ
龜夫の娘だもんだから、山の芋は何
年経つても山の芋でござりやんす。
アハハハハ」
父に嘲られて、お花ははつと紅く
した顔を擡げた隣子の方へ戻けた。
「いや、爾うぢやない。何處かづま
はぐれが違ふさる。のう、大野で」
子爵は傍の大野を顧みな。大野は
黧黒いで顔を擡りながら
「花ちゃん、もう忘れた時分だらう
ね、僕らの顔に見覚えがあるかい。わく
花ちゃん」
と言ふと、お花は面ほげに大野を
二人はさも懐かしげにこんな會
を交した。感情的な若い人と人と
目には、最う驚けるやうな血の色
春の草に立つ陽炎の如く生々しく
透た。實際眞實の思ひ出も湧く
大野節男の父が此村の小林區署
勤務をしてゐるうちに、いつか二
は遊び友達になつて、一緒に苔
したこともあつた。今から思ふと
よりも流い幼時の記憶である。
「あア幼馴染か、十數年ぶりで奇
？ふむ、左様か。ぢやあ懐かし
附やう」
子爵は傍で感心したやうに言ふ
嬌子は偶然に自分の同じ年頃の美
い婦人を、信賴する大野の若い友
して、こんな深遠な山家に見出し

ことを、何より嬉しい獲物であるやうに思ひ取つて、「二人の顔を見較べながら、柔かい曲線の頬に融々とし笑を湛へて恍乎を聞いてゐた。

そのうちに源作は、「これが大河内子蘭と令嬢であるといふこと、今午橋の案内で朝日館に鑑賞をする後大野の家内で朝目嬢に驚愕をすゝめ、態々東京から出向いて來たのだといふこと、登山までは其家逗留する等だ」といふ言葉を娘に逐聞させたといふ。お花は肝を潰し顔をして

「お父さん、そんなことを言つたとお前、こんな穢ない豚小屋みたいな家に……第一上げる物だつてあるやしないぢやないか、それに蒲団だつて……まア、随分失禮なこと引受け申したのね」

噓ぐやうに言つて、不承らしくの面を見て、と源作は無稽作に首掉つて

「なアに、構はね。ほんなことをにかけさつしやる腰裡ではねいたら……まア贅帳にとろゝ汁でも打けてよ。臭い濯殿漬でもないんでもあるものを上げたらよかんべ。」

國のかほりにやあ皮がうんごあるから、何様でも敷いて上げろ。なから、大野の旦那、ほれてよかんべす」

「あゝ結構だ。餘計な心配をされど却つて御前に御迷惑をなさるかどうかね、花ちゃん、懇願の着がりに來たと思つて、何でも手輕にやつておくれ。」大野は言つた。

[illegible]

◀ 著到種秋番一第優 ▶

◎ 忽ち大入満員

大冒險大探偵大活劇

「ハート」の3

見落し給ふな

今日一日限り 瓢

十巻上場

館

種秋

早進代無録目業營

種子苗木
農具肥料
電話七〇四番
板橋區口座京城五六番

京城勸農園

京日案内

普通 (一) 四町金十錢無附出

番外(一名金六十兩、銀四十兩、金五兩、銀五兩)
中込邊中込銀中込止の通切金返成手

告通

▲女子用書籍 料理・手紙・茶の湯
本町二電二五七 花化・鏡花・浮世帳 616
▲古本熱心高價買入 御殿登上 637
▲電話二七八一 番 本町四電 637
▲電話二七八一 番 本町四電 637
▲護下宿屋京成日坂の場所都合に
より安價にて譲る (姓名在社)

居店入賃

但し商業に實働有る者に限る 641
吉業町二丁目二番地 大橋大 3部
●得意店 個人用年半 江崎前後市
に要償貸入る保証人本人來談あれ 631
京成太平通 遠味味啖 小賣部 631
雑誌卸賣會 新雜誌三十種 603
京成本町一松井松榮堂 電 三七八
●飲食所 病病 629
京成並木町五十八番地 佐野回春堂

番外

萬染物商若宮染工場 (京) 東京市馬場
電話一八五七
望寫字生 男女採用高等小學
有希望者四處送詳單上相當收入(38)
長崎市合資會社
十人町可會費社
帝國社

外務員採用 志望者應函寄其參りたし
一月一回定日
東京國債朝鮮支部
京城明治町一丁目 職紹介す 635

女生徒募集 卒業後就
京城明治町一丁目 職紹介す 635

京城簿記專修館 春川間飛合自働車金片道四個
京城水邊橋前入時 春川發午九點
京城水邊橋前入時 春川發午九點
電話式參入番支配人松田澤男50


外交員貳名募集 希望者本人來談あり
日本生命保險株式會社
日代理店 鈴木 628

商品切手 何處の商店發行
御取次第奉仕可仕儀(電話一八八七)
旭町三丁目角
〇旭商會
橫山商店藏入

分礦物各種 京城太平通二、二五 865

拆礦物各種 坂元分拆所 電話一三四四

新刊書御案内	著者	定價
輸入稅	五錢二五	
學校教育の倫理的	心守國彦	一、八〇
理の基礎及其實際	一評譯	
新撰日本外史	池邊聖典	一、四〇
新論聖賢各卷	天	九〇
涼風五十五口集	寛三	九〇
田島生生活	中一	一、二〇
趣味の求め	田島 聖二	一、六〇
明治文藝史	史仲 龜遊	一、五〇
秘話	誠見 仁門	四八
赤穂義士	惟田 葵城	一、五〇
新アラビヤナイト	斯上 譯	九五
帝變史	三木愛花	九五
花	久保正太郎	一、二〇
小	シキジ	七五
妹の見たる	ニイチエ 磯崎泰子	八五
大尉の娘	愛子 譯	七五
罪と罰	中村白雲	一、五〇
新婚の夜	夜孔雀園主	七〇
生立の日		



 大學生目薬

治ッタリ！
 多年困った眼病も
 点眼して立派に
 治ッタリ！

大正十一年四月廿八日
 大阪屋號書店

續き御用命ありたし
 爲跡五千本を限り
 到る處最高評を博し
 特價發賣以來其完全無

一
 筆
 毛
 筆
 年
 萬
 一
 日
 十
 月



祝 仁 川

株式會社

機械製
 行許
 最上醬油
 龍商標
 絕對品質本位
 鮮滿釀造界唯一之聲名
 會進共產物
 年五
 設於
 金牌受領
 釀造元仁川港
 日本醬油株式會社
 電話一五七番區京成七一四番
 京 城 出 張 所
 電話二四五番區京成三五二番

■定檢士博學醫秦■

大分教授鈴木博士指導の下に當社が逸早く製造に著手したる「子オアルサミノール」は烟集し來る注文に追はれ供給の數量之に伴はざりしも、今や擴張工事完成し漸く大方醫家の需要を充たし得るに至れり。幾年エーリツヒ博士が本品を發明さるゝに際し動物試驗を擔當し六〇六號共働發見者の榮譽を擔はれたる秦醫學博士は本劑に付ても亦動物試驗を擔當さる故に秦博士は各瓶の品質に對し絶對的保證の責任を負はるゝものなり。

アル・サ・ミノール

ネオアル・サ・ミノール

〇・一瓦 〇・二瓦 〇・三瓦 〇・一五瓦 〇・三瓦 〇・四五瓦
 〇・四瓦 〇・五瓦 〇・六瓦 〇・六瓦 〇・七五瓦 〇・九瓦

東京室町

三共株式會社

於なる活動家の携帶品として至便なる點に於
 際期以上の好成绩を收たれば聊か謝意を表する
 特價六十四錢を以て發賣仕候條此の際引
 振替貯金口座京城三〇〇番
 京城日報社代理部

又局之發展

仁川米豆取引所

(電話一四番)

日本郵船出帆 大連丸 七月十五日 正午出帆 三河丸 七月十五日 正午出帆 高砂丸 七月十五日 正午出帆										尼崎汽船出帆 神戶丸 七月十五日 正午出帆 秀吉丸 七月十五日 正午出帆 秀吉丸 七月十五日 正午出帆										大阪商船出帆 大阪丸 七月十五日 正午出帆 大阪丸 七月十五日 正午出帆 大阪丸 七月十五日 正午出帆										朝鮮郵船出帆 朝鮮丸 七月十五日 正午出帆 朝鮮丸 七月十五日 正午出帆 朝鮮丸 七月十五日 正午出帆										日本郵船出帆 大連丸 七月十五日 正午出帆 三河丸 七月十五日 正午出帆 高砂丸 七月十五日 正午出帆									
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--